

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

- 目的** 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。
- 成果**
- 仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達の作品・資料調査に基づき、『美術研究』431号にその研究成果を論説として掲載した。
 - 屋外彫刻の保存状況をめぐり、部内研究会にて討議を行った(12月21日)。
 - 現代美術資料センターとの協力体制を刷新・発展させ、全国的な美術コレクター・ギャラリー組織との連携による現代美術資料収集の枠組み構築について協議を行い(9月9日)、試験的に関連コミュニティに当研究所での資料収集事業に関する告知を実施した。
 - 美術評論家の故鷹見明彦が撮影した画廊の展示風景写真の整理を進めた。
 - 今中期計画で継続的に遂行した日本の近現代作家情報の整備(『日本美術年鑑』「物故者記事」「名簿」所収、4,835名)が完了した(成果の一部をゲッティ研究所に提供、オンライン美術家人名事典ULANで公開予定)。
 - アメリカの西洋古典絵画コレクション形成に寄与した画商ジョセフ・デュヴィーンと美術史家矢代幸雄との往復書簡(ゲッティ研究所蔵)について、部内研究会で口頭発表した(8月25日)。
 - 久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進めウェブ上で公開、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡の概要を『美術研究』433号に研究資料として掲載した。



8月25日開催文化財情報資料部研究会の様子

- 論文**・野城今日子：「小室達《伊達政宗騎馬像》の制作とその社会的背景をめぐって」『美術研究』431 pp.1-24 20.8
- ・塩谷純・伊藤史湖・田中潤・齋藤達也：「書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流(一)」『美術研究』433 pp.25-66 21.3
- 発表**・山梨絵美子：「ゲッティ研究所が所蔵する矢代幸雄と画商ジョセフ・デュヴィーンの往復書簡」令和2年度第3回文化財情報資料部研究会 20.8.25

- 研究組織** ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也、田所泰、田中潤(以上、客員研究員)